

ひろっぽ

Vol. 475 2026. 2

入江理事長プロジェクト
どこまで進んだ?

ARIA2025参加報告
高知県警本部長からの
感謝状

第25回 近森病院
公開県民講座 開催

表紙の写真



近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

2月11日(水)は通常診療を行います。

入江理事長の Project

プロジェクト



プロジェクト 1

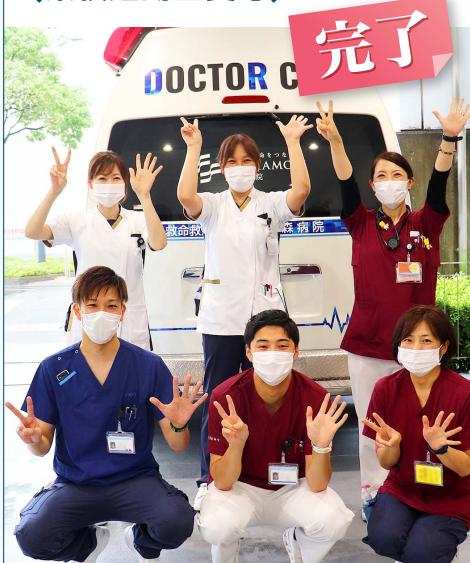
北館～本館一体化 及び 薬剤タワー建設プロジェクト



- ・クラウドファンディング達成
- ・2026年6月末に完成予定

プロジェクト 2

近森会「がんばったぞ賞」 (業績連動型賞与)



- ・2024年度分を2025年6月ボーナスに追加支給
- ・2025年度以降は業績次第

プロジェクト 3

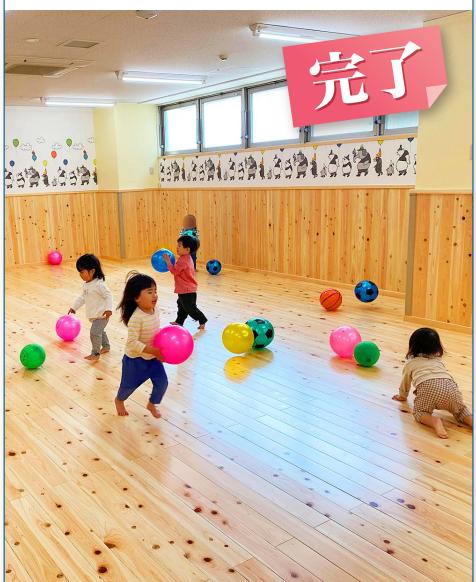
医事電算センター新設 ～デジタル化で未来を拓く～



- ・2025年10月健康管理センターを近森リハビリテーション病院に移設
- ・12月に管理棟7階へ引越し完了

プロジェクト 4

保育室そるとリニューアル ～仕事をしながら子育ても～



- ・2025年3月に拡張工事完了

プロジェクト 5

医療DXによる地域連携の革新 「コマンドセンター」



- ・2025年1月より構築を開始
- ・9月から運用をスタート

プロジェクト 6

生成AIを使いこなそう



- ・2025年4月に第1回AI学習コース実施
- ・10月に生成AI活用チャレンジ2025開催
- ・12月にチームAX発足

どこまで進んだ？

2024年11月号から2025年12月号でご紹介しました「入江理事長のプロジェクト」12個について、進捗状況をお知らせします。

プロジェクト7

#未来の医療を支える
「地域フォーミュラリ」の構築を目指して
##南海トラフ地震に備えた
医療提供体制の強化

第178回 近森病院 地域医療講演会 2025年3月13日

『フォーミュラリって何?』

講演1 地域フォーミュラリの概要とてんね地区導入の経緯

● 講師／札幌薬剤師会手稲支部長 澤田 博文先生（有限会社かえで薬局 取締役）

講演2 フォーミュラリ、病院から地域への展開

● 講師／札幌市医師会手稲区支部長 成田 吉明先生（医療法人済仁会 理事長）



20%

- ・2025年3月近森病院地域医療講演会開催
- ・「院内フォーミュラリ」推奨薬の策定進行中
- ・「地域フォーミュラリ」構築を県医師会・薬剤師会等と協力予定

プロジェクト10

地域でチーム医療
「地域医療連携推進法人」

完了



地域医療連携推進法人
高知メディカル
アライアンス

KOCHI MEDICAL ALLIANCE



- ・2025年9月コマンドセンターの運用スタートと共に、本格稼働
- ・10法人12施設、約1,400床のグループ

プロジェクト8

動画作成プロジェクト



30%

- ・2025年に各部門代表による委員会を設置
- ・2026年3月に近森会グループ生成AI活用チャレンジ第2弾として、動画マニュアルチャレンジを開催予定

プロジェクト11

個室を増やそう



- ・2026年度中に個室を18室、2人・4人部屋を各5室増やす予定

プロジェクト9

PHSからスマートフォンへ
～医療現場の未来を拓く挑戦～



- ・2026年1月より本館5階B・C病棟、救命救急病棟、ERでスマートフォン300台を試験導入

プロジェクト12

本院正面玄関フロア整備計画
～ワンストップセンター(仮称)を含む～

近森病院本館1階B・C

10%



変更箇所

- | | |
|------------------|-------------|
| ① ワンストップセンター(仮称) | ⑥ イートインスペース |
| ② コマンドセンター | ⑦ 発熱外来 |
| ③ 相談デスク | ⑧ 大型ディスプレイ |
| ④ 相談ブース | ⑨ 待機スペース |
| ⑤ 入院時物品レンタル | |

- ・2026年6月の薬剤タワー・空中通路の完成以降、薬剤部跡地を改装予定

第25回 近森病院公開県民講座

2025 その最前線 救命救急の近森病院、

12月13日(土)

[会場]近森病院管理棟3階会議室(オンライン配信有)

救急

年間7,000件!中四国屈指の救命救急センターからの実績報告



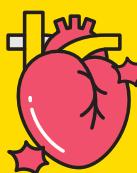
講師

救命救急センター
センター長
根岸 正敏
ねぎし まさとし



心臓治療

心臓病は怖くない?
心臓救急の最前線



講師

循環器内科 部長
細田 勇人
ほそだ はやと



講師

脳神経外科 部長
林 悟
はやし さとる

脳卒中

あなたの脳を守る!
ここまで進んだ
脳卒中治療



連携搬送

つながる命、広がる医療。
一連携は進む、
救命救急と地域の
チームワーク



講師

救命救急センター
看護師長
野瀬 美保
のせ みほ

近森恒例! 25回目の「公開県民講座」

近森病院 副院長 兼 救命救急センター センター長
近森会理事

根岸 正敏 ねぎし まさとし



2011年の救命救急センター指定から15年目を迎えたこの度、『救命救急の近森病院、その最前線2025』と題し、救命救急をテーマに25回目となる公開県民講座を開催しました。

救命救急の近森、その最前線を語る

最初に、私から近森病院の救急医療体制(いつでも、だれでも、どんな疾患でも)、救急車、ドクターヘリ、ドクターカーでの受け入れの状況について報告させていただきました。

続いて、循環器内科 細田部長から心臓病治療についての講演がありました。中四国でも有数の治療症例を誇る当院の循環器内科の実績とともに、虚血性心疾患(心筋梗塞など)における当院での最新の補助循環装置を使用した治療方法など、動画を交えての詳細な説明がありました。そして何よりその予防が重要であることが強調されていました。

脳神経外科 林部長からは脳卒中について、その典型的な症状の認識、迅速な病院への搬送の重要性についての講演がありました。脳卒中治療は時間との

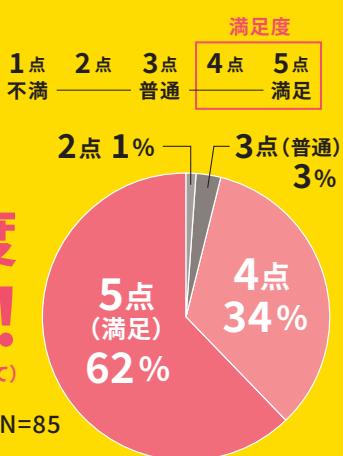
勝負であり、早期対応により使用可能な薬剤、特殊な血栓回収療法などの治療選択肢が増え、治療成績も改善することが可能となります。こちらも動画を交えてのわかりやすい講演でした。

最後に救命救急センターの野瀬看護師長から、重症患者さんを24時間体制で受け入れるためのベッド確保の必要性とその具体的な対応、周辺医療機関との密な連携の必要性についてのお話があり、4人の医師・看護師による約2時間の講座は幕を閉じました。

これからも県民に寄り添う医療を

今回は近森病院で多くの患者さんを受け入れている心疾患、脳疾患(救命救急)を中心とした内容で、短い時間ながら充実した公開県民講座となり、師走の休日にもかかわらず多くの皆様のご参加をいただき盛況のうちに開催することができました。これからも当院は高知県民の皆様に寄り添った医療を提供してまいります。

満足度調査



**満足度
96%!**
(4点以上を合わせて)

N=85

嬉しいご意見もいただきました!

- 命を預かる救命救急センターの仕事は大変で地域にとってはなくてはならない病院です。体力、知力のスペシャリストだと思います。これからも頑張ってください。
- わかりやすい説明で健康予防の重要性が理解できました。
- 大変言葉も聞きやすく、よく理解できました。開かれた救急病院だと確信いたしました。市民として安心して生活できる喜びです。
- 先頭の根岸先生の温かいお心遣い、お人柄が身に染みていましたに感謝しております。

次の開催

5月31日(日)

[会場] 高知県立県民文化ホール
(グリーン)

どう
ご期待!

出張

Japan Executive Program 2025(JEP2025) (2025年9月28日~10月5日/アメリカ)

次世代医療の現場から ～米国研修JEP2025での学び～

消化器外科 主任部長 兼
地域医療連携センター センター長 塚田 晓 つかだ あきら

研修参加の概要と狙い

2025年9月28日から10月5日までの期間、GE HealthCare主催の「Japan Executive Program 2025 (JEP2025)」に参加し、米国における医療マネジメントやリーダーシップ、医療DXの最前線について学ぶ機会を得ました。本プログラムは、医療機関の次世代を担う人材を対象に、講義、ワークショップ、医療機関・企業視察を組み合わせて行われる実践的な研修です。今回、このような貴重な機会をいただけたのは、入江理事長、川井院長のご理解とご配慮のおかげであり、心より感謝申し上げます。



▲左から、GE HealthCare Japan株式会社 代表取締役社長兼CEO 若林氏(左)、研修修了証を持った筆者(中央)、今回の研修の責任者の大成氏(右)。

変革を進める手法とチームづくり

研修では、DiSC理論を用いた自己理解・他者理解を通じて、円滑なコミュニケーションやチームづくりの重要性を改めて認識しました。また、GEが長年実践してきた変革手法であるWork-OutやCAP(Change Acceleration Process)を体験し、現場の声を活かしながら組織を前進させるための考え方や具体的な手法を学びました。

視察で見た米国医療DXと、当院への展開

さらに、Aurora St. Luke's Medical Center やシカゴ大学病院の視察では、ホスピタリスト制度や包括的ケア、AIを活用した電子カルテなど、米国医療の先進的な取り組みに触れることができました。医療の質向上と業務効率化を両立させる工夫は、日本の医療現場においても多くの示唆を与える内容でした。

本研修を通じて、日本全国から集まった次世代を担う医療関係者と出会い、活発な意見交換ができたことも大きな収穫でした。異なる地域や立場からの視点に触ることで、自施設の強みや課題を客観的に見つめ直す良い機会となり、今後もこのつながりを大切にしていきたいと感じています。

今回の出張で得た学びと人的ネットワークを、今後の診療体制の改善や組織づくり、人材育成に活かし、当院のさらなる発展に貢献していきたいと考えています。



▲シカゴのトランプタワーの前で全国から参加した研修生と記念写真。

学会参加

ARIA2025
(Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement)
 (2025年11月21~23日／福岡市)

循環器内科 主任部長
 關 秀一 せき しゅういち



ライブ中継でカテーテル治療の最新知見を共有

2025年11月21日(金)～23日(日)、福岡市にてARIA(Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement)2025が開催されました。ARIAの重要な目的の一つに、循環器医によるカテーテル治療をライブ中継で発信しながら、最新の治療法やトピックスについて福岡に集まつた多くの医師と議論するセッションがあります。今回は、近森病院から冠動脈治療1症例、下肢動脈治療3症例をライブ中継で発信しました。当院のメディカルスタッフがチーム一丸となって取り組む総合力を、全国に示すことができたと自負しています。

医療は日々進歩しており、常に新しい知識や技術を取り入れることが不可欠です。高知県にお住まいの方々にも国内トップレベルの循環器治療を提供できるよう、スタッフ一同、今後も研鑽を積んでまいります。

最後に、近森病院からのライブ中継にご尽力いただいた皆様へ、心より感謝申し上げます。



治療のライブ中継の様子。下肢動脈を筆者が(写真右)、冠動脈を細田部長が担当(写真左)。

■役員

役職	氏名	職業
理事長	入江 博之	医師
副理事長	川井 和哉	医師
常務理事	寺田 文彦	当法人役員
理事	和田 恵美子	医師
理事	岡本 充子	看護師
理事	鄭 明守	医師
理事	筒井 由佳	薬剤師

役職	氏名	職業
理事	森田 潔	医師
理事	根岸 正敏 新任	医師
理事	杉本 健太郎 新任	医師
理事	藤田 徹也 新任	他法人役員
監事	西山 彰一	他法人役員
監事	西尾 友和 新任	他法人役員

新任



近森会
 ～2026年1月1日付～

■社員

役職	氏名	職業
理事長	入江 博之	医師
副理事長	川井 和哉	医師
常務理事	寺田 文彦	当法人役員
理事	和田 恵美子	医師
理事	岡本 充子	看護師
理事	鄭 明守 新任	医師
理事	筒井 由佳 新任	薬剤師

学会開催

第35回 日本乳癌検診学会 学術総会 開催

2025年11月28~29日/
高知県立県民文化ホール・三翠園・ザ クラウンパレス新阪急高知

会長／
近森病院 乳腺センター センター長 杉本 健樹
兼 乳腺外科 部長



2025年11月28日(金)、29日(土)
に高知県立県民文化ホールを中心
に三翠園とザ クラウンパレス新阪急
高知を会場として、第35回日本乳癌
検診学会学術総会を開催いたしました。
テーマは「みんなで支える乳癌
検診 -すべてのひとにスポットライト
を-」で、全国から1,000名を超える
方々に参加をいただき盛会裏に終了
いたしました。

今回は、マンモグラフィ検診に加え40歳代女性への超音波の導入、
様々なモダリティの開発、AIの活用、遺伝性腫瘍を中心としたリスク
層別化、デジタル化が推進するPMH(Public Medical Hub)を応用
した組織型検診の導入によるDX時代への対応など最新の話題を
取り上げたプログラムに加え、常に検診を支え推進していただいている



多くの職種の方々にご発表いただく機会を多数設けました。

40%台で低迷するマンモグラフィ検診受診率、乳癌発見の契機となるべきプレスト・アウェアネス「乳房を意識する生活習慣」の認知度の低さなど解決すべき問題も山積していますが、これらの課題を克服してより精度の高い乳癌検診を継続していくためには、様々な職種・立場の方々の協力が不可欠です。今回の学術総会では職種を超えて活発な議論が行われ、多くの方々から高い評価をいただきました。

また、スタッフの中で「おもてなし隊」を結成して高知の食材やお酒を楽しめるように準備して来ましたが、中でも懇親会でのよさこいチーム「ちかもり」による踊りは臨場感が高く、参加者のみなさまから大好評でした。

プログラムの作成からご協力いただいた中国四国の乳癌診療に
関わる医療者のみなさま、そして、学会運営を支えていただいた近森
病院のスタッフのみなさまに心から感謝いたします。



学会会場では、乳癌検診に関する様々なセミナーも開催された。写真左から、マンモグラフィ読影セミナー、超音波技術セミナー、マンモグラフィ技術セミナー。



第7回 ALL CHIKAMORI Start Dash!!

2/28
2026
Sat

既卒・現職の方も是非ご参加ください!

第一部 10:00~12:00(受付 9:30~)

第二部 13:00~15:00(受付 12:30~)

午前と午後の二部制です。お好きな時間でお申込みください。

会場 近森病院管理棟3F

表彰

高知県警本部長からの感謝状拝受のご報告

2025年11月18日

近森病院 副院長 兼 救命救急センター センター長
近森会理事
根岸 正敏 ねぎし まさとし

この度、高知県警本部長より、これまでの死体検案業務に対しての感謝状を賜わりました。振り返りますと、これまで20年間で携わった検案件数は、まもなく1,400件となります。

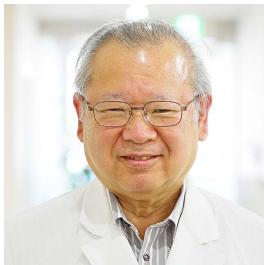
近森相談役から引き継いでの業務でしたが、お亡くなりになられた方々を想い、できる限り休日、夜間を問わずに対応してまいりました。日ごろ救急現場では、人命を救うべく努力しておりますが、不幸にも病院での治療も受けることもできずにお亡くなりになられた方々と向き合うこと、そしてご遺体の状況から公正かつ正確な判断を下すというこの業務は、私にとっては常に重い責任感を伴うものでありましたが、ぜひとも成し遂げたいという気持ちで行ってまいりました。



ここまで続けてこられたのは、私個人の働きだけではなく、現場で共に活動させていただきました高知県警刑事課、検視官の皆様、関係の皆様の努力の賜物と深く認識しており、皆さんのご指導とご協力に心より感謝申し上げます。今回の拝受を励みに、今後も地域社会の安全と故人の尊厳を守るという使命を果たすべく、より一層精進してまいります。



学会受賞



製剤化を通じて患者さんに良好な結果を

薬剤部 薬剤師 見元 尚
みもと ひさし

第30回 日本亜鉛栄養治療研究会学術集会 最優秀演題賞(臨床領域)受賞

演題

亜鉛の恒常性における硫酸亜鉛注射液の有用性を考える—消化管を通過しない注射剤投与は低銅血症を起こしにくい—

亜鉛補給を目的としたノベルジン錠が上市される1年前の2016年、当院では低亜鉛血症に対する院内製剤として亜鉛注「チカモリ」を承認しました。当院でのみ使用可能という制約の中、現在までに5,500本を超えて使用されています。

亜鉛は必須微量元素としてDNA・RNA合成、細胞分裂、発育、新陳代謝など生体の基本的機能を支えています。注射剤投与後の臨床経過から、経口薬とは異なる効果を実感しました。本発表では、経口薬と注射剤を血中濃度や副作用の観点から比較・評価しました。

実臨床の課題を医師と共有し、製剤化を通じて患者さんに良好な結果をもたらせたことは薬剤師として大きな喜びであり、本取り組みを支えてくださった当院に感謝いたします。



表彰

第76回 高知県社会福祉大会にて 感謝状を拝受いたしました

2025年11月19日

社会福祉法人 ファミーユ高知の西岡由江、沼慶子の2名が、高知県社会福祉大会会長感謝状をいただきました。西岡は、医療から福祉の分野に異動し15年活動を続けてきたこと、沼は、障害者の雇用に15年携わってきたことが評価されました。

高知ハビリテーリングセンター センター長
西岡 由江 にしおか よしえ（写真右）

医療から福祉へ転身し15年。地域で暮らす誰もが安心できる生活を支えたい一心で歩んできました。今回の受賞は、共に取り組んできた仲間や地域の皆さまのおかげです。これからも、住み慣れた場所で笑顔が続くよう力を尽くします。



しごと・生活サポートセンターウェーブ センター長
沼 慶子 ぬま けいこ（写真左）

会場には多くの方が参加されており、そのだれもが「だれかのために」活動されていることを知り感動いたしました。私にできることは本当に小さなことだと思いますが、これからも仕事や活動を続けていきたいと思っています。

すまいる♥ナース通信 #認定看護師

季節が変わっても、木の根は変わらない

近森リハビリテーション病院 看護部長室 シニア看護師長／精神科認定看護師
萩原 博 はぎわら ひろし



精神科認定看護師として認知症ケアなどを担当しています。精神看護で培ってきた「那人らしさを大切にする」という視点は、認知症ケアにも共通する大切な指針です。その視点を大切にしながら、日々関わる方々の支援に努めています。

病気や障害により生活が変化しても、その人がこれまで大切にしてきた価値観や生き方は変わりません。その人が何を大切にしてきたのか、どんな役割を担つ



近森会グループ看護部
マスコットキャラクター モリンちゃん

てきたのか、どのような関わり方に安心されるのかなど、状態は変わっても失われない「那人らしさ」を大切にすることが、療養生活のなかでの心身の調和を促し、より良い回復につながっていくと感じています。

認定看護師、その他の役割等から横断的に関わる立場のため、一人ひとりの関わりは限られますが、誰かの回復にそっと寄り添える存在でありたいと思っています。



USJ日帰り1班

2025年12月12日



東京フリー
+羽田空港JAL整備工場見学

2025年12月14~16日



制服着用体験の様子。



— 冬のドイツ便り ～暗い冬と濃密な臨床の日々～



「暗い」が日常になるドイツの冬

ドイツのBonnに留学中の循環器内科の菅根です。これを書いている今は12月で、ドイツはとても寒く、暗いです。暗いとは?と思われるかもしれません、緯度の関係で明るくなるのが朝9時くらい、陽が沈むのが夕方4時くらいです。つまり、ドイツの冬は、暗い中仕事に行き、暗い中家に帰ってくるということになります。ドイツ人にドイツの冬について聞いてみてください、Dunkel(暗い)という単語が出てくるはずです。

暗さが生む楽しみ、Weihnachtsmarkt

このドイツの冬の暗さを利用したイベントがあります、そうWeihnachtsmarkt(クリスマスマーケット)です。厳格な昔のキリスト教では、この時期、日中の商売を禁じていたため、夜間に市場による商売を行う必要があったことが由来です。Weihnachtsmarktで有名なドイツの都市はLeipzigなどですが、Bonnでも開催しています。暗いので、明かりが映えるのと、寒い中飲むGlühwein(スペイスとオレンジやレモンなど柑橘類を加えたホットワイン)は最高です。



TAVIとMTEERに追われる日々

さて、たまには臨床のことを書かないと。こちらでは経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)が1日6件、経カテーテル僧帽弁形成術(MTEER)は3件程度行っています。つまり、近森病院のおおよそ1ヶ月の症例数はこれらでは2日で終わってしまいます。某有名漫画の“精神と時の部屋”的な話です。

大体こういう話になると、“質はどうなの?日本人の方が上手いでしょう”という質問が出てきます。これにはまず、“上手さの定義とはなんですか?”という問い合わせから入らないといけません。このお話は次回以降にしましょう。それではまた(Bis gleich)。

募集

近森病院 看護師特定行為研修 受講生募集

願書受付／
2026年3月2日(月)～
3月19日(木) 17:00必着



No.	コース名
I	栄養コース
II	外科系基本コース ※1
III	麻酔コース ※2
IV	集中治療コース ※3
V	救急コース ※4
VI	末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理(PICC)関連 呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連 胸腔ドレーン管理関連 腹腔ドレーン管理関連 動脈血液ガス分析関連

問い合わせ先

社会医療法人近森会 近森病院
看護師特定行為研修事務局
TEL／088-822-5231
(平日8:30～17:00)

修了生、続々活躍中!
あなたの参加をお待ちしています。

*1、*2、*3、*4 「保健師助産師看護師法第37条の2 第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令の施行等について」に示される“外科系基本領域パッケージ研修”、“術中麻酔管理領域パッケージ研修”、“救急領域パッケージ研修”を指す。但し、*3については“集中治療領域パッケージ研修”に区分別科目「栄養及び水分管理に係る薬剤投与と関連」を加えたオリジナルのコースとしている。



さらに詳しく→

近森会グループ 災害対策!

テーマ
2

近森オルソ リハビリテーション病院の 災害対策に迫る

【第2回】「オルソ災害新聞」って?



近森オルソリハビリテーション病院
作業療法科 科長

仲川 健 なかがわ けん

「オルソ災害新聞」は、災害対策情報や病院内の防災への取り組みを紹介する情報紙です。地震や火災、風水害などの災害時に患者さん・職員の安全を守るために、院内で実施した防災訓練・消防訓練・安否確認送信訓練の結果などを掲載しスタッフと共有しています。また、新しく購入した災害対策備品の紹介や備蓄している災害用備品(非常食・蓄電池・投光器など)の紹介もしています。

災害新聞を通じて全職員の防災意識を高め、安心して医療を継続できる体制づくりを目指しています。



● 今回で近森オルソリハビリテーション病院の災害対策は最終回。次回は、保育室との災害対策についてご紹介します!



近森病院 臨床栄養部

近森病院 臨床栄養部
管理栄養士主任
田部 大樹
たべ だいき



食事の準備を負担なく簡単に

今回は少し角度を変えて、食事の準備に関してお伝えします。がん患者さんは治療により今まで通りの生活ができず「喪失体験」を多く経験しますが、そのひとつに食事の準備もできなくなってしまう事があります。少数の調査ですが、食事の準備ができないことを不安であると感じた人が43%程度いたと報告されています。治療中に何を食べたら良いかと悩む方にとって十分な栄養を摂ることに対して、さらに大きな壁となります。基本的には食事制限はないことが多いですので「食べやすい物をいかに準備するか」がカギとなります。

この際、有用なものは配食サービスです。ご高齢の方が利用する

イメージがあるかもしれません、バランスの取れた食事をお弁当として毎日自宅まで配達してくれるため、献立を考える時間や準備の手間が省けます。また体力的に買い物が難しい方でも買い物代行サービスを活用すれば、スーパーで販売している惣菜やお弁当、また栄養補助食品など食材等へのアクセスが負担なく容易となります。食事の準備が大変であると感じた方は、ぜひ管理栄養士に相談してみてください。



歳時記

(2025年12月24日)

近森電車 南北路線運行

12月24日は、近森病院の開設記念日です。79周年となった当日、通常は東西路線を運行している近森電車が、南北路線(高知駅→桟橋間)を特別に運行し、病院の前を走りました。車体に描かれているのは「地域とともにある近森会グループ」。私たちはこれからも、地域の皆さんとともに歩む病院でありたいと考えています。



2025年11月6日

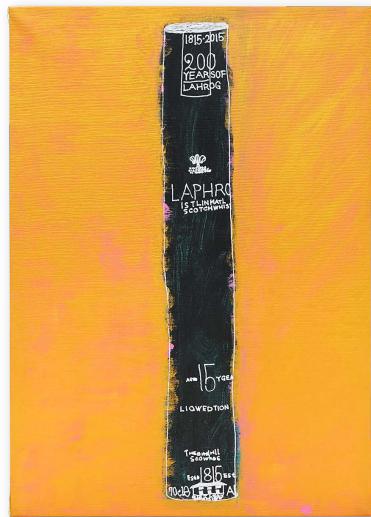
高知国際高等学校の課外活動グループ「Knitter's(ニッターズ)」
(※)から、手作りの認知症マフ30個を寄贈いただきました。過去に取り組んだ近森病院とのコラボ製作経験(ひろっぽVol.468に掲載)をきっかけに結成されたご縁から、今回の「里帰り寄贈」をいただく運びとなりました。

※「Knitter's」は高知市子どもまちづくり基金助成事業「うちこどもファンド」の助成団体です。

CHIKAMORI COLLECTION

近森コレクション

不定期
掲載



ラフロイグ15年 箱

内田 貴裕氏
(アートセンター画業)



アートセンター画業



インドネシア人
スタッフさん

日本見聞録

職員旅行(USJ日帰り1班)

2025年12月12日



各寮で クリスマスパーティ

2025年12月24日



▲やまもも寮



▲さくら寮

3,000とおりの誇れる仕事

募集職種

- 医師
- 診療放射線技師
- 看護師
- 臨床検査技師
- 介護福祉士
- 救急救命士
- 事務



詳しくは、近森会
グループHPの
採用ページを
ご覧ください。



14ページ「ぶらり旅」の問い合わせ:2度にわたる元寇(げんこう)に対し盛んに祈祷が行われ、国東塔が造られ、奉納孔から塔身に法華経が納められました。

退職

ごあいさつ

感謝感激雨あられ!
長い間ありがとう。

訪問看護ステーション
ラポールちかもり 所長(看護師長)

杉村 多代 すぎむら たよ

在職 1992.4.1~2025.12.9

f&f(※)のままに

※近森会グループのシンボルマーク、
freedom&flexibilityの意。

私が入職した年は新館が建った1992年でした。予定月より早くにできあがり、玄関からの大きな階段が2階まで吹き抜けだったことを思い出します。34年弱の月日を、希望していた精神科看護師として全うできたのは、大きな喜びです。

近森会への就職の決め手となったのは、1980年代高知新聞に掲載された記事でした。近森の精神科病院が入院患者をどんどん退院させて訪問看護でフォローしているというので、印象深く記憶に残っていました。まさか自分が看護師人生の大半を地域看護に捧げることになるとは思いませんでしたが、今日の自分があるのは利用者の方々のおかげだと思っています。医療の発展がめまぐるしいのは精神科領域でも同じで、今ではリカバリーの概念が浸透しつつあります。病気や障害はその人の一部ではあるが全部ではなく、「その人らしさ」で限りある人生を送ることができるようと考えます。

近森会では溢れるほど学びの機会を頂きました。入職して辞めたいと思ったことは一度もなく、楽しく仕事ができました。ここに感謝申し上げます。

(現在も引き続き、訪問看護ステーションラポールちかもりに勤務されています。)



近森病院 総合心療センター
副看護部長

武田 直子 たけだ なおこ

在職 1989.9.4~2025.12.25

よきよきよきよき
人々と過ごした
近森会

1989年(平成元年)に
近森会に入職して、一貫して精神科で勤務をさせて

いただきました。その間、医療機能評価を受け、新病院の建設、第二分院から近森病院への合併など大きな動きがありました。

そして、この36年間、精神科をめぐる医療、地域の状況は大きく変化しました。現在、精神科当事者は社会のなかでいろいろな選択ができるようになっていますが、その意思決定に寄り添っていける支援者が求められています。

そんな看護を求める日々を、よき精神科チームのみなさまとともに過ごし、多くのことを学ばせていただき、感謝いたします。さらに、近森病院とともに歩み、多くのみなさまと出逢えたこともよき財産です。

定年退職は少しだけ先ですが、家庭の事情があり、一足先にお暇させていただきます、ありがとうございました。日日是好日。

ハッスル研修医

すいてきせきせん
水滴石穿

初期研修医 1年目
山田 真生 やまだ まお

真冬の寒さが続いておりますこの頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

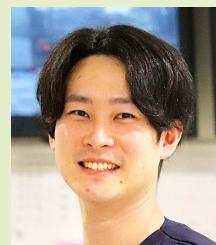
入職してはや1年経ち、気付けばもう2年目の先輩方は専攻医への階段をあがろうとしています。この1年、人として、そして医師として様々な角度から皆様にご指導いただきました。入職当時、医師の人生で一番成長するのは研修医1年目から2年目までの1年間だと言われたその言葉の真意を実感する日々です。

タイトルは私の座右の銘です。これからも自分に足りない知識や技術、能力を常にプラスアップしながら、コツコツと努力していく所存です。頼れる2年目となれるよう頑張りますので、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



New face //
ニューフェイス

- ① 所属 ② 出身地 ③ 最終出身校
④ 卒業年次 ⑤ 趣味など



川瀬 博也
かわせ ひろや

- ① 救急科医師
② 高知県
③ 高知大学 ④ 2021年
⑤ 3ヶ月の地域研修から帰ってきました。幡多は空気も食べ物もおいしかったです。



リレーエッセイ

5番ポジションにして

近森病院 8階A病棟 看護師
森 奈々 もり なな

これは娘が言られた言葉ですが、何の事だか分かりますか？正解はバレエの足のポジションの事で6番まであります。

以前の職場で縁があり、娘がバレエを習い始めたのが小学5年の頃です。当時は猫背で身体も硬く髪も短くて、筋肉痛になりながらストレッチをしたり、知らない言葉を覚えたり、トウシューズ練習で爪が割れて痛くて泣きながらレッスンに行く事もありましたが、今は背筋も伸び一人で髪をショーン（団子）にしてヴァリエーション（ソロ）を踊れる程になりました。

私は裏方として、衣装直しでムシと言うホックを引っ掛ける輪のようなものを作ったり、トウシューズが新しくなればリボンとゴムを縫い付けたりします。トウシューズは底が木製なので洗えずお手



入れを怠ると臭くなるので注意が必要です。

次の発表会はパ・ド・ドゥをするようで、用語はまだ勉強中です。まだまだ分からぬ事ばかりですが、周りに助けてもらい感謝しつつ続ける事ができています。

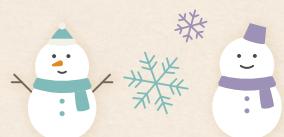
私の趣味

季節ごとの景色を楽しむ

近森病院 6階B病棟 看護師
小笠原 燐 おがさわら りょう



私の趣味はスノーボードと釣りです。冬には久万スキーランドや小田スキー場へ行き、友人と雪山で風を切って滑る爽快感を楽しんでいます。始めたての頃は滑ることが難しかったですが、回数を重ねるにつれ技術が少しずつ上達していく過程が楽しく、今年で4年間続けています。季節が変われば海へ出かけ、釣り糸を垂らし、友人と会話しながら、集中とリラックスの両方を味わうことの出来る釣りも魅力的です。また、季節ごとの景色を感じながら楽しめるのも2つの趣味の良いところです。これからもマイペースに楽しんでいこうと思っています。



まるまる私の○○

FREE ○○にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「子育て写真」

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部
言語療法科 言語聴覚士

中越 真由 なかごしま ゆ



この執筆の機会をいただき、仕事と育児と家事をこなしていく毎日の中で自分の趣味ってなんだっけ？と思い浮かべると、子どもとの日常を写真に撮ることでした。

子どもの成長は驚くほど早く、昨日の表情がもう懐かしく感じられることがあります。最近はどんぐりや銀杏の葉っぱ拾いにはまっています。また七五三もありました。写真はそのものです♪撮った写真を後から見返すと、子どもの成長だけでなく、その時の自分の気持ちまでよみがえります。

子どもの写真は育児の記録であると共に、親として歩んできた自分の時間のアルバムでもあるな～と感じます。これからもワークライフバランスを大事にしながら、育児も仕事も頑張ろうと思います。





源泉数、湧出量で日本トップの別府温泉郷。あちらこちらから白い湯気が立ち上っている。

独自の歴史と 自然が豊かな 国東半島

2月下旬、別府温泉に1泊し、国東半島をぶらりと巡ってきました。古くから山岳信仰の地として、国東半島の六郷の地に開かれた天台宗寺院を中心とした独特の仏教文化圏「六郷満山」の世界が今でも残っており、伝説では八幡神が仁聞菩薩となってあらわれたのが始まりとされています。

ちなみに、国東塔は鎌倉時代後期の世情不安の国難から造られ始めましたが、その国難とはなんでしょうか？（答えは11ページの下）



▲江戸時代の町並がそのまま残る城下町・杵築。南北の高台にある武家屋敷が、谷間の商人の町を挟んだ「サンドイッチ型」城下町は日本唯一。



▲元宮磨崖仏



▲天念寺の前を流れる長岩屋川の中に立つ川中不動。
▲宇佐神宮は全国八幡社の総本山であり、伊勢神宮につぐ宗廟として歴代天皇より篤い御崇敬を受けている。



看護学校通信

第38回 日本看護学校協議会学会の開催にむけて

近森病院附属看護学校 副校長 平瀬 節子
ひらせ せつこ

2026年8月6日～7日、本学が大会長校として第38回日本看護学校協議会学会を開催いたします。少子高齢化が進む高知県は、日本の未来を先取りする地域でもあり、限られた医療資源の中で、質の高い看護を届け続けるために、AIの活用は避けて通れない課題となっています。本学会では、このような地域の現状を踏まえ、AIをどのように看護に活かしていくのか、また看護教育として何を大切にしていくのかを皆さまと共に考えます。教育者として、学生一人ひとりの「意志ある学び」をどのように支え、「看護の本質」をいかに伝えていくかを語り合う場としたいと考えています。



編集室通信

背を丸め、うつむいて歩きがちな冬は自然と足元に目がいくもの。そんな季節を彩るのが、フクジュソウやユキワリイチゲといった早春の妖精「スプリング・エフェメラル」です。他が葉を落とし、花の少ない時期にけなげに咲く姿に(厳しい環境で咲く花こそ美しい)と気付かされ、自分もそうありたいと思うことです。 さつまおごじよ

診療数 2025年12月

—電子カルテ管理課—

●近森会グループ

外来患者数	17,795人
新入院患者数	1,148人
退院患者数	1,182人

●近森病院(急性期)

平均在院日数	10.84日
地域医療支援病院 紹介率	109.40%
地域医療支援病院 逆紹介率	365.79%
救急車搬入件数	606件
うち入院件数	371件
手術件数	647件
うち手術室実施	401件
うち全身麻酔件数	285件

前野さくら

Sakura Maeno

管理部 経営企画部
広報課 主任

聞き手／ひろっぱ編集部

ここ数年、近森会の掲示物のデザインが分かりやすく洗練されたと評判だ。その立役者が広報課の前野主任である。昨年の「生成AI活用チャレンジ2025」では最優秀賞(業務以外)を受賞。「近森会75周年のロゴ」も彼女によるものだ。聞こえてくる仕事ぶりから、完璧主義な職人肌の方を想像していたが、対面するとその印象は一変。小気味よい彼女の言葉は、センス溢れる鋭い視点と茶目っ気が同居し、チャーミングな雰囲気にすっかり引き込まれた。

憧れの「まんが甲子園出場」で得たプロの視点

前野主任のクリエイティブな原点は、保育園児の頃に遡る。近所のスーパーに飾られていた、高知県立岡豊高校の「まんが甲子園」優勝作品に心を奪われ、同校へ進学。



(写真上)前野家かわいいメンバー。「生成AI活用チャレンジ2025」の演題「AI先生、うちの子犬が今日も自由すぎます!~生成AIとともに取り組む行動改善と信頼づくり~」で協力してくれたのが、真ん中のMIX犬。AIしつけのおかげで旅行も行けるようになったそう(写真右)。



想いを乗せて
デザインに

念願叶い部員約60名の漫画・アニメ部の副部長となり、自らのアイデアで本選出場の夢をつかみ取った。しかし、優勝を期して臨んだ本選結果は悔しい現実に。「その時の優勝作品と自分たちの作品を比べて気づいたんです。自分の面白いと思うものと、(大人の)審査員に響くものは違う。伝える相手の視点に立ち作るべきであったと」。この気づきが、今の制作担当としての姿勢に深く結びついた。

穏やかな日常と、スッポン愛

今のブームは「野生のスッポン探索」。「昔からカメが好きで、五台山の池などへ連れて行ってもらっていました。スッポン、かっこいいですよ」と、日光浴する姿に自由と癒やしを見出している。「あとはサウナと外気浴。カメの気持ちになりたくて。すいません、盛りました(笑)」。「心配性ゆえに無駄なストレスを抱え、その解消に努めている」という、客観的で自虐的な分析が、笑いと共感を誘った。

家族への恩返し

「母が看護師なので、祖父母に叔父や叔母など親族みんなで私たちの面倒を見てくれました。山にツララを探しに行ったり、バス釣りに挑戦したり、NEWレオマワールドや倉敷チボリ公園にも遊びに行きました」と懐かしむ。今も家族旅行に行ったりと、仲睦まじさは変わらない。

近森病院に就職した理由の一つも、「大きな組織で働くことで、家族を安心させたい」という思いから。家族が互いを思いやり、過ごされている様子が伝わってきた。

急ぎの依頼も、期待に応えたい

広報課メンバーは前野主任を含め5名。院内広報誌「ひろっぱ」、ホームページ、SNS、掲示物や動画制作など近森病院を幅広く知ってもらうために日々、情報発信を行う。主任になり半年、前野主任は前向きに仕事を楽しんでいる。

仕事で大切にしているのは「納期厳守」。組織に身を置く制作担当として、迅速な対応を心掛けている。「納期を守らなければ、内製でいる意味がない」という言葉には責任感が滲む。

「誰かのために」をカタチに

「メンタルがよわよわで、本当にダメな女なんですよ」と、『ちびまる子ちゃん』のようなトホホ口調で自嘲し、「おしゃべりが苦手だから広報は向いていないかも」とも。きっとそれは「相手にどう伝わるか」を真剣に考えている裏返しだろう。目標を尋ねると「丁寧なコミュニケーションがとれる人間になりたい」と返答。それもまた、相手を慈しむ思いからの言葉と腑に落ちた。

最近は動画制作を勉強中。コロナ禍前には年間100回ほど鑑賞していたという映画好きの前野主任が手がける新しい表現にも期待が高まる。視聴者の視点を大切にしながら、独特的の眼差しと遊び心で、近森会の魅力を、また新しいカタチで発信し続けてほしい。

